

第75回 CPD セミナー・『公開講座』・防災セミナー(徳島)

1 セミナーの概要

2021年12月4日(土)に、徳島市のホテル千秋閣にて、第75回 CPD セミナー・『公開講座』・防災セミナーを開催しました。あわせて技術士二次試験合格者祝賀会も開催しました。

表1 プログラム

1. 開会 (13:00~13:30)

(1) 開会挨拶

(公社) 日本技術士会四国本部
本部長 古野 隆久

(2) 四国本部及び青年技術士委員会の紹介

(公社) 日本技術士会四国本部
広報委員 菊池 昭宏

2. CPDセミナー (13:40~14:40)

演 題:『リモート型社会の実現に向けて
~ICTで徳島の発展に貢献~』

講 師:NTT 西日本徳島支店長 佐々木 保彰氏

3. 公開講座 (14:50~15:50)

演 題:『下水道未整備地区の逆襲
~合併処理浄化槽に付加価値を~』

講 師:阿南工業高等専門学校創造技術工学科
建設コース准教授 川上 周司氏

4. 防災セミナー (16:00~17:00)

演 題:『徳島市「地震・津波避難支援マップ」
作成のノウハウ,10年の取り組みから』

講 師:徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
准教授 田村 隆雄氏

5. 合格者祝賀会 (17:30~19:30)

- (1) 開会挨拶 四国本部事業委員長 豊崎 裕司
- (2) 乾杯 四国本部副本部長 富士 達雄
- (3) 合格者の紹介
- (4) 中締め 四国本部防災委員長 天羽 誠二

セミナー参加人数は、37名、うち一般参加者は0名、祝賀会参加人数は28名、うち新規合格者は5名でした。(今回祝賀会に参加された新規合格者は、祝賀会が未実施であった令和元年度新規合格者2名含む)

2 開会挨拶 古野本部長

四国本部 古野本部長の開会挨拶で始まりまし
た。



写真1 古野本部長の開会挨拶

3 四国本部及び青年技術士委員会の紹介

菊池広報委員

四国本部 広報委員会の菊池委員より、日本技術士会の紹介、また四国4県における青年技術士交流委員会活動について、コロナ禍のなかでも活発であった本年度の活動内容を挙げての紹介がありました。



写真2 菊池広報委員による紹介

4 CPD セミナー 佐々木 保彰氏

CPDセミナーは、NTT西日本 徳島支店長 佐々木 保彰氏より、『リモート型社会の実現に向けて～ICTで徳島の発展に貢献～』と題しました講演を頂きました。

ご講演は、まず、電話やテレビ、eスポーツ、ネット検索、テレワーク等、現在私たちが便利に使っている ICT に関する様々な利用シーンの提示から始まりました。そして、それら技術の基盤となる要素技術についてわかりやすく説明されたうえで、これまで私たちが使っている技術がどのような状況、技術革新により発展を続けたのか、例えば半導体であればムーアの法則、通信技術であれば広帯域化による情報の大容量化・高速化等について、わかりやすく説明していただきました。

そのうえで、今後想定される課題として、通信量の爆発的な増加、それに伴うネットワーク負荷の高まりや遅延、またそれらのデータを処理するための消費電力増加への対応等を挙げられ、これら課題の克服に向けた革新的な取り組みとして、光+無線の通信技術と情報処理技術を活用したコミュニケーション基盤、IOWN(Innovative Optical and Wireless Network)構想、またそれらが実現していくスマートな未来社会を提示していただきました。

最後に、これらの技術の一端が、MMS(モバイルマッピングシステム)やドローンによるインフラ点検等、現在の技術にも実装されつつあることを紹介し、講演を締めくくられました。



写真3 佐々木 保彰氏の講演

5 公開講座 川上 周司氏

公開講座は、講師に阿南工業高等専門学校 創造技術工学科建設コース 准教授 川上 周司氏をお招きし、『下水道未整備地区の逆襲～合併処理浄化槽に付加価値を～』と題しましたご講演を頂きました。



写真4 川上 周司氏の講演

ご講演では、インフラマネジメントテクノロジーコンテスト、略して「インフラテクコン」2020に参加し入賞に至った、阿南高専を昨年卒業した5年生3人組の先進的な取り組みを紹介いただきました。

この取り組みでは、単独浄化槽から合併浄化槽への転換が進まないという徳島県の排水処理の課題について、「浄化槽の細菌相を見れば居住者の生活スタイルや健康状態がわかる」ことに着目し、居住者の健康チェックができることをインセンティブとして合併浄化槽への転換を図る、「第三世代の浄化槽」を提案されたとのこと。この浄化槽には、腸内細菌情報による居住者の健康状態、食生活管理、お年寄りの見守り、ウイルスの流行監視等様々な機能を期待できるとのことで、それを活かし、ユーザー、ユーザーの息子、自治体、遺伝子検査会社等々を参加者とした、健康や安全・安心に関する情報の収益化によるマネーフロー案も構築、提案されました。現在も、遺伝子検査の低価格化、様々なセンサーの開発、もののIoT化、浄化槽台帳のようなビッグデータの構築等、本提案を後押しする技術革新も進みつつあるとのこと。

アイデア出し、関連企業とビジネス目線のディスカッションを進める中で、3人組の大きな成長も感じられたとのこと。

6 防災セミナー 田村 隆雄氏

防災セミナーは、講師に徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 准教授 田村 隆雄氏をお招きし、『徳島市「地震・津波避難支援マップ」作成のノウハウ、10年の取り組みから』と題しましたご講演を頂きました。

講演では、最初に、ハザードマップと地震・津波避難支援マップについて説明頂きました。ここでは、災害を知るためのハザードマップについて、“津波避難に繋げる”ための工夫として、以下のよう示されました。①災害想定(新推進・浸水域)は示さない。②避難に費やせる約30分間に役立つ情報を記す。③「常日頃」から「いろいろ考える」ための情報を記す。これらを反映し、限られた時間で、安全かつ速やかな一時避難を完了できる方法を、住民一人一人があれこれと考え、試すことができるマップを、行政、大学だけでなく住民も参加し作成することで、学びの機会ともすることができるとのこと。続いてこれまで実施した事業における具体的な工程、ワークショップやまち歩きの詳細、留意点をお示しされ、それらから得られた防災意識の変化、気づきなどもご紹介いただきました。

最後に、すでに作成した20地区に及ぶマップコレクションを紹介されながら、マップ成果により様々な方面に波及する効果として、防災意識の向上、転入者や子供との情報共有、住民相互や自主防災会間の連携強化等、一方、今後の課題として、全戸配布の方法、利用方法の周知、更新作業等をあげられ、まとめとされました。



写真5 田村 隆雄氏の講演

7 合格者祝賀会

豊崎事業委員長の挨拶、富士副本部長の乾杯の音頭で祝賀会が始まり、約2時間の歓談の後、天羽防災委員長の中締めの挨拶で閉会しました。



写真6 天羽防災委員長の中締め

8 おわりに

今回は、いったん落ち着きつつあるとはいえコロナ禍での開催ということもあり、セミナー参加者37名のうち、会員が30名、非会員が7名と会員の割合が多い結果となりました。一方、祝賀会に出席された新合格者数は、祝賀会が未実施であった令和元年度新規合格者の方2名も含むものの、一昨年の2名から、今年は5名に増加しました。

今後は、(一社)建設コンサルタンツ協会、(一社)徳島県測量設計業協会等への後援依頼や技術士会独自の広報活動を展開すると共に、セミナー内容の充実を図ることにより、出席者の確保に努めて参ります。

豊崎 裕司 (とよさき ゆうじ)
技術士 (総合技術監理部門,建設部門)
四国本部事業委員長
四国建設コンサルタント(株)